

# 労福協 NEWS

2018.11 No.91



主催者あいさつ

## 第1期労働者福祉推進員養成講座始まる

2018年8月25日(土)、ろうきんホールにて第1期労働者福祉推進員養成講座が始まりました。この講座は「すべての労働者が豊かな人生を送るために」を基本テーマとして、労働組合員や市民の皆さんが豊かな将来設計を描くことができるように、労働者福祉の理念や各労働

者福祉事業団体の制度をわかりやすく解説するために、連合徳島や様々な労働者福祉事業団体が協同して資金を出し合い、開設した講座です。

第1回は、中央労福協前事務局長の大塚敏夫氏が労働者福祉の歴史や理念についてご講演くださり、「福祉は一つ、すべての人に開かれている」と力説されました。

第2回は、賀川豊彦記念館館長の岡田健一氏から、賀川豊彦の生い立ちや、「救貧から防貧へ」という考えのもと、労働運動や生協運動など様々な分野に力を注いだという、私たちが奮い立たせる生き様をご紹介します。



第2回目



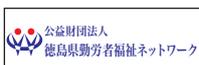
第1回目



第3回は、「労働金庫運動と生活応援運動」、「全労済と生活保障設計運動」についてご講演いただきました。共助互助の仕組みだからこそできる日常生活に役立つ有益な知恵を授かりました。

第1期労働者福祉推進員養成講座は、5回の講座をもって完結するものであり、第4回は、12月15日(土)、第5回は、2019年1月26日(土)に行うこととしております。養成講座をとおして、「すべての労働者が豊かな人生を送るために」、労働者福祉を担う人材の養成に努めてまいります。

「労福協NEWS」は、連合、労金、全労済、勤労者福祉ネットワーク、労館、労福協の6団体による「共同デスク編集委員会」を持ち発行しています。



# 労 福 協

## 庫倫旗第一中学の日本語教室支援事業を継続するために訪問しました。

去る7月9日から12日までの間、中国・内モンゴル自治区・通遼市の庫倫旗第一中学を訪問し、日本語教室に通う中学生（日本では高校生）を招請する国際支援事業について、継続する覚書を締結するとともに、弁論大会に出席し、招請する中学生の選抜に関わらせていただきました。



庫倫旗第一中学は、戦争孤児となった烏雲さん（日本名は立花珠美、徳島市国府町出身）が教鞭を執られた学校で、中国で育てられた恩返しとして、日本語学校を建てるという烏雲さんの気持ちに賛同し、1990年代半ばに、労働者福祉協議会も支援活動に協力してきましたが、2011年より労福協としての国際交流・支援事業として、庫倫旗第一中学で日本語教室に通う優秀な生徒を日本・徳島市に招請し、烏雲さんの出身である国府町の北井上中学校生徒や四国大学生との交流を図っています。

7月10日に、訪問団は庫倫旗第一中学を訪問し、図門校長や日本語教師の皆さんなどと意見交換し、引き続き3年間の事業継続を柱とする覚書を締結するとともに、日本語を学ぶ生徒たちの中か

ら選抜された6人から「私の夢」と題する日本語での意見発表について審査をして、2人を選抜しました。

点数評価で3人が同点となり、泣く泣く2人を選抜するというハプニングもありました。

庫倫旗第一中学は、モンゴル人の子弟が通う中学校で、モンゴル語の民族教育が保障され、その殆どが寮生活をしながら、学生生活を送っていて、朝の7時起床から10時の消灯まで、自習時間を含めれば約11時間学習に勤しんでいると聞かされ、少々驚かされました。

今年も、訪問団が選抜した生徒たち2人と日本語教師合わせて3人が、10月20日から25日まで、日本・徳島を訪問しました。

滞在期間には、京都や奈良を参観し、徳島では北井上中学校を訪問して生徒たちと歌やゲームで交流したり、四国大学では留学生などと交流しました。

庫倫旗第一中学生にとっては、何もかも初めての経験であり、これからの人生に有益なものになることを願うとともに、近い将来に日中友好の架け橋として寄与してもらえるものと期待しています。



2018 全国一斉  
**Action!**  
福祉強化キャンペーン

# 奨学金制度を改善し、 教育費負担軽減につなげよう!

- 奨学金制度の更なる拡充と教育費負担の軽減を求めて声をあげよう!
- 未来を担う若者や子どもたちを支えよう!
- 奨学金と教育費負担のアンケートを行おう!

徳島県労福協



WEBアンケート実施中!  
<https://www.rofuku.net>  
実施期限:~2018年11月30日(金)

奨学金アンケートにご協力お願いします!



奨学金全国一斉相談会



なんでも相談しよう!

2018 全国福祉強化キャンペーン

## 連 合

## 徳島駅前街宣行動及び西日本豪雨災害救援カンパ活動



「クラシノソコアゲ応援団！ RENGOキャンペーン」徳島駅前行動を2018年9月19日(水)にJR徳島駅前で開き、働き方改革・最低賃金・西日本豪雨災害救援カンパをテーマに連合徳島各構成組織をはじめ労働福祉6団体から42人が参加し、街頭宣伝・最低賃金のビラ配り・カンパ活動を行った。

冒頭、連合徳島島事務局長から、西日本豪雨災害被災地支援カンパへの協力を呼びかけたあと、「人事院は8月10日、政府と国会に対して、2018年度の国家公務員の月例給を655円(0.16%)引き上げ、一時金の支給月数を0.05カ月増とする勧告を行った。これは、2018春季生活闘争における民間の妥結状況を踏まえたものであり、月例給および一時金のいずれも5年連続の改善となったことは評価できる。社会全体に賃上げを波及させるべく、政府と国会は勧告どおり早期の給与改定を実施すべきである。また、大きな社会問題となっている過労死については、2019年4月1日から、罰則付きの時間外労働の上限規制や労働時間の客観的な把握等が施行されることになった。過労死ゼロに向けて、『過労死等防止対策推進法』に基づき策定された『過労死等の防止のための対策に関する大綱』が

見直され、勤務間インターバル制度の導入企業割合を2020年までに10%以上とするなどの数値目標が盛り込まれる。」と述べた。

続いて、民間大手部会新居部会長、徳島県中小労働対策本部原田議長、(公財)徳島県勤労者福祉ネットワーク杉本専務理事、国民民主党徳島県総支部連合会庄野代表から、徳島県の地域別最低賃金、働く者のための働き方改革、労働福祉団体の事業説明と取り組み、県政の取り組みと国民民主党の政策を述べた。

この日に寄せられた救援カンパ金は、14,546円となり、8月21日の



第1回のカンパ活動では15,727円、8月25日の第2回目のカンパ活動では13,346円が集まり、あわせて43,619円が集められた。これらのカンパ金は連合本部に一括集約され、被災地である岡山県・広島県・愛媛県各県知事および連合が行う救援ボランティア活動費用に充当させていただきます。

ご協力いただきました皆様方にはお礼申し上げます。



ろうきん



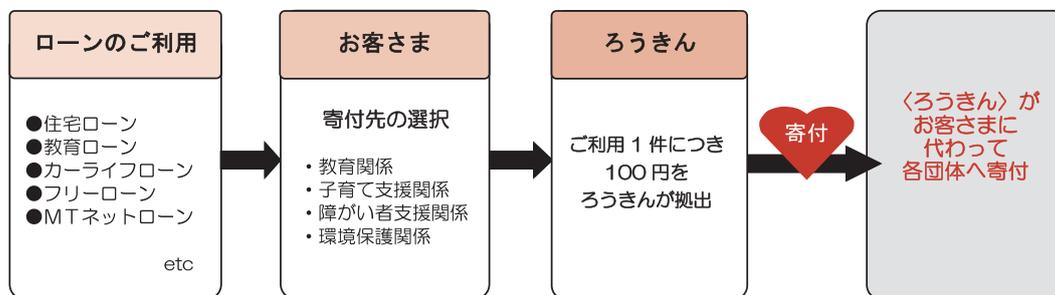
四国ろうきん1万人 ～はたらく仲間のためにできること～

# 笑顔プロジェクト

2018

お客さまにろうきんローンをご利用いただくことが、  
社会貢献につながります。

- 福祉金融機関ならではの寄付活動  
暮らしに寄り添った活動で、多くの笑顔に貢献します。



- 期間中にご利用いただいたローン1件につき100円をろうきんが拠出し、寄付いたします。  
(ご融資することによって、ろうきんが得た利益から、お客さまに代わって寄付するシステムです。)
- 寄付先は、教育関係、子育て支援関係、障がい者支援関係、環境保護関係から、お客さまに選んでいただけます。
- 期間は、2018年4月1日から翌年3月31日までといたします。

## 全 労 済

保障のことなら

全労済

全国労働者共済生活協同組合連合会

このたびの台風により被害を受けられた皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。  
一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

## 2018年度 徳島防災フェスタ 2018 出展報告

2018年10月21日(日)、徳島県立防災センターで開催された「とくしま防災フェスタ2018」に参加し、地域へ防災対策に関する知識を広く普及し、大規模災害に備えるための意識の高揚をはかることを目的とした防災イベントを開催しました。

徳島推進本部出展ブースでは、防災に関するクイズの実施、地震時の建物の揺れや耐震化について、実際に見て触れて学ぶ教材として、「紙ぶるる」を使用した参加型イベントなど、小さなお子さまから大人の方まで多くの方に参加いただきました。

また、さまざまなリスクから「住宅」や「家財」を守る保障の備え方などに関するアンケートに答えていただき、意識の向上についてもお願いしております。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



イベント詳細

## あい♥あいファミサポフェスティバル2018 出展報告

2018年10月28日(日)、四国大学で開催された労働福祉団体との連携強化と子育て世代への推進強化を目的とし、「県民と働く者のとくしまフェスタ2018」のイベントのひとつである「あい♥あいファミサポフェスティバル2018」に出展しました。保障相談の実施や、子どもの塗り絵遊びなど、多くの方に立ち寄っていただきありがとうございました。



イベントで使用した塗り絵

# 勤労者福祉ネットワーク

## ◆ハートフルゆめ基金とくしま 第1回NPO 法人・市民活動団体交流会 ～連鎖と情報交換、そして躍進～ の開催

8月25日(日)、沖洲マリントーナメントにおいてNPO団体14団体、協力団体等2団体、計16団体、20人が集い意見交換会を開催しました。

ハートフルゆめ基金とくしま運営委員会代表委員の中村昌宏氏のファシリテーションのもと、それぞれの課題や成功例などを持ちより共有しながら、NPO同士、NPOと企業、NPOとメディアなど様々な連携や交流について活発に意見交換がなされました。

最後に、財団理事長久積育郎より、記念すべき第1回の交流会の成功と今後の継続、またこれを機会に記念誌の作成に取り掛かるとの挨拶がなされ会を閉じました。



ハートフルゆめ基金とくしま  
NPO法人・市民活動団体交流会の様

## ◆とくしまマリッジサポートセンター (マリッサとくしま)

### 「第1回市町村結婚支援ネットワーク会議」の開催

9月27日(木)、徳島県総合福祉センターにおいて、県市町村合わせて12の自治体から結婚支援(少子化対策)の担当者などが集まり、県内の自治体や企業・団体による結婚支援の拡充を目的とした勉強会(講演会)、意見交換会が行われました。

冒頭、主催者を代表して財団専務理事杉本友好より、このネットワーク会議を通じて、マリッサとくしまと各自治体の連携強化と、結婚支援を目的とした自治体同士の交流をより深化させたい旨挨拶し会議がスタートしました。

講演会では、株式会社ニッセイ基礎研究所の天野馨南子氏を講師に迎え「今なぜ、結婚支援が必要なのか」と題し、少子化対策における日本の現状把握から自治体による結婚支援の必要性、そして、それぞれの自治体とマリッサとくしまが、どの様な形でコラボレーションできるのかなどについて、ご講演いただきました。

後半の意見交換会では、各自治体の担当者から、講師の天野氏への質問や、各自治体の結婚支援への取り組みの報告がなされました。

最後に天野氏から、過疎に悩む自治体が、移住政策に結婚支援を取り入れて大きな成果を得られた他県の成功事例等を元に総括し、マリッサにとっても、自治体にとっても大きなヒントとなる、大変実りある会議となりました。



マリッサセンター長より事業説明



(株)ニッセイ基礎研究所天野氏による講演

マリッサとくしま  
開設2周年  
記念!

ありがとう  
キャンペーン  
2018年7月31日▶12月28日

失着300名 12月28日まで!

マリッサとくしま (とくしまマリッジサポートセンター)

徳島市徳島町城内 2-1 (とくぎんトモニプラザ4F)  
TEL 088-656-1002  
FAX 088-656-1008 msc@marissa-tokushima.com

マリンピックとくしま  
検索  
https://www.msc-tokushima.jp/

徳島県

◀ 今回だけの特典 ▶  
失着300名様に

1対1の出逢い  
マッチング入会登録料  
通常1万円から  
**2,000円割引!**

+

お得なクーポン本  
プレゼントします!  
**くーぽん丸。**

実質  
**2,750円**  
お得です!!

とくしまマリッジサポートセンター(マリッサとくしま)は、公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワークが、徳島県から委託を受け、結婚支援を行う公的センターです。

## 地域ライフサポートセンターの活動

## 徳島中央ライフサポートセンター

無料健康講座

リラクゼーション・ヨガを  
体験してみませんか!



- ◇日時 2018年11月15日(木)  
午後6時～7時
- ◇場所 ふれあい健康館1F大ホール  
(徳島市沖浜東2丁目16)
- ◇講師 徳島フィットネスラボ  
ルーシーダットンインストラクター  
阿部 ひとみ 先生
- ◇参加費 無 料

※ヨガマットの貸出はあります。必要な方は参加申込み時にお申し出ください。  
また、飲み物も各自ご持参下さい。



昨年の様子

## 【申し込み先】

徳島中央ライフサポートセンター

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1

電話番号 088-623-4105

FAX番号 088-678-4177

E-mail chuou-lifesh@utopia.ocn.ne.jp

※先着35名になり次第締め切ります。

## 【2018年度上半期 暮らしなんでも無料相談集計表】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
暮らし・生活	3	6	3	5	2	2	21
法律	0	0	0	0	0	2	2
子育て・介護・老後	1	1	0	0	0	0	2
保険・金融	1	0	0	0	0	0	1
労働相談	1	0	0	2	1	0	4
合計	6	7	3	7	3	4	30

古紙・古新聞・古雑誌・古着・缶・  
ペットボトル・ペットボトルキャップで  
地域の子ども会活動を応援しよう!!

地域で現存する子ども会活動をしている団体より要請があり、古紙・古新聞・古雑誌・空き缶・ペットボトル・キャップを中央地域協議会と中央ライフサポートセンターで集めることとなりました。子ども会運営に充てたいとのことで、子ども会運営事務局の方が回収に来ます。

以下の日程に労働福祉会館6Fに持ってきていただきたくご協力よろしくお願いします。

ぜひみんなの善意で地域に子どもの居場所を!

回収日：毎月 第2・第4木曜日

場 所：労働福祉会館6階 連合徳島前  
(徳島県徳島市昭和町3丁目35-1)

## 徳島西部ライフサポートセンター

## ～2018平和の夕べ共催～

8月5日(日)三好市へそっ子公園にて「2018平和の夕べ」が開催されました。

平和の夕べでは、地域住民のみなさんとともに平和の尊さを学び伝えていく機会になればとの思いで、毎年夏に映画上映やイベント開催などを行っています。この活動に徳島西部ライフサポートセンターも平和の夕べ実行委員会の一員として参加しました。





オープニングは三加茂中学校青年太鼓のみなさんが若さあふれる迫力ある演奏を披露してくれました。その後、ピースライブやキャラクターショーが催されました。キャラクターショーで使用されたアンパンマンやバイキンマン、トラの着ぐるみは、徳島西部ライフサポートセンターの地域貢献事業として貸出を行っており、毎年この平和の夕べで開催されるショーでも使用されています。

今年は、会場にいた小さなお子さんもアンパンマンたちと一緒にショーを盛り上げてくれました。



また、ダンススタジオFUNとyuyu with eririさんのコラボライブもあり、会場は素敵なダンスや歌に魅了されていました。焼きそばやかき氷などの屋台もあり、夏を満喫することができました。

メインイベントの映画は、今年は「二十四の瞳」が野外上映されました。みなさん、静かに見入っていました。

夜とはいえ大変暑かったのですが、みなさんとともに平和について考えることができた一日となりました。

## 徳島南部ライフサポートセンター

### 四国労働金庫推進委員会イベント

「星の観察会」が開催されました。

以下、主催した「四国労働金庫阿南支店」から届いた報告と写真です。

★8月5日(日)、阿南市科学センターにて四国労働金庫阿南支店 推進委員会イベント「星の観察会」を開催致しました。当日は29家族、総勢82名の方にご参加いただき、2グループに別れて「星座早見表の作成」・「四国最大級の望遠鏡にて昼間の星観察」をそれぞれ交互に行いました。またイベント後には宇宙食など科学センターならではのプレゼントも多数ご用意し、大変好評なイベントとなりました★



【2018年度上半期の相談件数集計表】 4月1日～9月30日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
暮らし・生活	6	10	12	6	1	4	39
法律	0	0	0	0	0	0	0
子ども・介護・老後	0	1	0	0	0	0	1
保険・金融	0	0	0	0	0	1	1
労働相談	0	3	1	0	0	0	4
合計	6	14	13	6	1	5	45

## わーくぴあ徳島

とくしま社会運動資料センター  
第10回公開講座

日時 2018年9月8日(土) 9:30~12:10  
 場所 ヒューマンわーくぴあ徳島5F大ホール  
 内容 映画鑑賞 『そっちやない、こっちや  
 コミュニティケアへの道』  
 講師 NPO法人太陽と緑の会  
 代表理事 杉浦良氏



とくしま社会運動資料センターの第10回公開講座が、9月8日、ヒューマンわーくぴあ徳島にて開催されました。労働福祉

会館の会員団体の他、資料センターの運営委員、関係者など60名が参加しました。今回の講座は、福祉ドキュメンタリー映画『そっちやない、こっちや コミュニティケアへの道』の鑑賞であり、解説・講師として、本作品と関わりの深い杉浦良氏(NPO法人太陽と緑の会 代表理事)をお招きしました。

この映画は、福祉ドキュメンタリー映画の巨匠・柳澤監督の作品です。映画の前半部分では、障害者にとっての「コミュニティ・ケア=地域福祉」とは何かを問いかけ、後半からは、知的障害者自らが考え建てた共同作業所「ポパイの家」の完成までを追った記録映画です。講師の杉浦良氏は撮影当時の1979年、同志社大学で福祉を学びながら知的障害者施設のボランティアをしており、映画の舞台となった知的障害者施設(愛知県知多市)の療養グループに指導員として加わっています。

本講座の初めに、主催者を代表して久積センター長より開会の挨拶がありました。久積センター長は挨拶の中で、「一億総活躍を謳っている政府の中枢、各省庁の障害者雇用の水増し問題、障害者の人権を否定した見せかけの雇用であり、見せかけの共生であります。人間の尊厳を第一とした共生社会の実現が問われています。映画を観て共に勉強しましょう」と述べました。

上映に先立ち、講師の杉浦氏より映画の紹介がありました。以下、発言要旨。

この映画は、1981年に完成、37年前の国際障害者年の時です。当時の時代背景を述べますと、養護学校(今の支援学校)が義務化されたのが1979年、愛知県知多市では養護学校が1校もありませんでした。映画に出てくるハンディを持ったメンバーの殆どが就学猶予と言い、「学校へは来なくていいですよ」と言われた人達です。精神保健福祉法が施行されたのが1995年。当時、精神障害と言われている人達は病人のエリアでした。支援の対象ではないと言われていた時代でした。

今言われている地域福祉やインクルージョンとは随分と状況が異なります。学校に通えず施設にも入れない様々なハンディを持ったメンバー達が、例え制度が整っていなくても地域で遅く生きていく姿を、映画の中でご覧頂ければと思います。

映画の鑑賞後、質疑応答が行われました。「こうした取り組みは、杉浦さん以降どうなっていますか?」との質問に対し、杉浦氏は「自立支援法が2006年に制定され、今映画で見たようなメンバーが作業に参加することは、リスクや安全管理を問われ、非常にやりにくくなる。全国的に見ても少なくなっている」と回答されました。また、太陽と緑の会の現在の状況を聞かれ、「障害者自立支援法に則って運営してい



ないので、就労支援や生活支援は全くしていない。就労支援・グループホーム・生活支援など上手くリンクさせてやっていけば、公的資金を受けられて、もっとステップアップできると言われるが、自分のコンセプトに合わない」と述べられました。

最後に、徳島県労働福祉会館の藤原理事長より、「健常者、障害者の共生について改めて考えさせられ、共に生きていく社会をどう創るのかというのが問われた内容でした。そういう意味では、雇用の問題は共生の原点だと思います」と締めくくりの挨拶がありました。



※出所：『そっちやない、こっちや 映画監督・柳澤壽男の世界』  
2018.2 新宿書房

平日、忙しい人のために  
休日に相談できる  
ところがあるんだって。  
けっこう、いいよね。

**だから、私も、ろうきん。**

あなたと  
わかちあう  
次の一歩

ろうきん  
公式キャラクター  
ピットくん

ろうきん  
アンバサダー  
高梨 藍

ZENROSAI NEWS

保障のことなら  
**全労済**  
全国労働者共済生活協同組合連合会

**ほなけん安心!  
ええじょ!全労済**

全労済の  
**住まいる共済**

火災共済・自然災害共済  
風水害等給付金付火災共済・自然災害共済・個人賠償責任共済

全労済は、営利を目的としない保障の  
生協として共済事業を営み、組合員の  
皆さまの安心とゆとりある暮らしをめ  
ざしています。出資金をお支払いいた  
だいて組合員になれば、各種共済をご  
利用いただけます。

**全労済 徳島推進本部**  
徳島県共済生活協同組合

発行 公益社団法人 **徳島県労働者福祉協議会**

徳島市昭和町3丁目35-1 (わーくびあ徳島内)  
TEL (088) 625-8387・FAX (088) 625-5113  
URL <http://www.tokushima-rofuku.net/>  
e-mail [tokushima@rofuku.net](mailto:tokushima@rofuku.net)

編集・発行人 川越敏良  
印刷者 (有)フォトプリント白石